視覚障がい者の支援におけるICTの活用事例について

資料５

１　情報の取得利用・意思疎通における活用例

（１）　サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）

視覚障害者を始め、 目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、 音声データなどで提供するネットワークです。

※「サピエ」は日本点字図書館 (外部サイト)がシステムを管理し、 全国視覚障害者情報提供施設協会 (外部サイト)が「運営」を行っている。

〇　サピエ図書館

　　　　全国のサピエ会員施設・団体が製作または所蔵する資料の目録ならびに点字 ・音声図書出版目録からなる、 点字図書や録音図書などの全国最大の書誌データベース。

資料によっては貸出依頼を出したり、 コンテンツをダウンロードしたりすることもできる。

　　〇　地域生活情報

地域・生活情報は、地域に密着した情報、イベントやお店の紹介、 防災関連や福祉関連の情報などを提供する。希望の条件を設定して検索すると情報を入手できる。

　　〇　図書製作支援

　　　　点字図書・音声図書等の製作の効率化を図るため、 インターネットでのデータのやりとりをはじめ、 製作者同士が連携しやすいシステムを提供する。

（２）スマートフォンやタブレット端末に活用できるアプリ

　　〇　音声コードを活用した情報取得支援

　　　　音声コードは、紙媒体に掲載された印刷情報をデジタルの音声情報に変えるための２次元のバーコード。日本語（かな漢字混じり）で約800文字のテキストデータを記録できる。「音声コード」化した文字情報は、「視覚障がい者用活字文書読上げ装置」やスマートフォンのアプリで読み取ることができる。

　　〇　コミュニケーション支援

　　　　端末のキーボードで入力した文字を読み上げたり、会話を文字化したり、絵カードを介して意思を伝えるなど、声以外で会話や、指差しや絵を活用して、意思疎通やコミュニケーションを支援するアプリがある。

　　〇　視覚障害者の生活の利便性の向上のための支援

　　　　音を聞くことで操作ができたり、カメラ機能で物の識別や色の判別ができたり、小さい文字を拡大できる等のアプリがある。

　　〇　その他

　　　　駅の乗換・エレベーター・トイレ、緊急時の連絡・通報・安否確認・防災情報等を知るためのアプリなどがある。

（３）支援に関する機器（ハード面）

　　　ウェラブルカメラとスマホを使って、視覚障がい者の代わりに見る・読むなど、声でサポートする遠隔援護システムや、ロービジョンの方の網膜上に直接映像を投影するレーザー投影技術により視覚を支援する技術が開発されている。

２　移動支援における活用例

1. 歩行者信号の状態を音声で知らせる支援

スマートフォンのアプリを利用し、歩行者信号の状態を音声で知らせるなどして、目の不自由な方等の安全を支援し、交通事故の防止を図る。

（２）QRコードを活用した支援

駅構内の点字ブロックにQRコードを設置し、スマートフォンのカメラで読み取ることで、現在地から目的地までの駅構内の移動ルートを案内する。

* 視覚障がい者の支援においてICTが活用されている事例の一部を掲載したもの。